

PDCA サイクルによる英文学科生の英語力向上への取り組み

背景・目的

英文学科では、2010年度より、学習支援のシステムに考慮したプログラム"Peer-Assisted Learning(以下 PAL と記す)"を設置し、学科英語教育に導入した。PAL では、主に卒業生（本大学院生および修了者）が学科独自の基礎英語能力調査試験（Achievement Test）の対策支援にあたる。この学習支援者が、指導法、教材などを教員と相談して決め、現場での状況を報告しながら運営し、学生、学習支援者、教員が連携をとるかたちを採用してきた。

本課題では、これまで実施してきた学生個人に対する目の行き届いた教育をさらに改善すべく、PAL における英語力指導システムに PDCA サイクルを導入し、推進することとした。

2013年度に引き続いて、本年度も英文学科オリジナルのキャリアファイル、「私の4年間」を作成、1年生には新規配布し、教員、PAL 指導の卒業生・大学院生などがアドバイザーとして「私の4年間」をもとに学生のこれまでの英語学習活動を振り返り、卒業までに学生自身が何をどこまで成し遂げたいのかを、より明確に意識させることを目的に取り組むこととした。

実施内容

2008年度から1年生を対象に実施している英語基礎力テスト：Achievement Test (AT)があり、その不合格者に対する学習支援を、2010年度より PAL プログラムで行った結果、非常に効果的であることが判明した。さらに、基礎力のさらなる強化も求められることから、2011年度から、2年生にも対象を広げ、大きな成果をあげることができた。これに基づき、今年も 1,2 年生を対象に英語能力を上げることを主な目的として 1

年生に AT1、2 年生に AT2 をそれぞれ実施し、さらに、英文学科オリジナルのキャリアファイル、「私の4年間」を新1年生全員に配し、学生一人一人が今年度の目標設定考え、ファイルに記載した。

	AT1	AT2
不合格者数	30	24
不合格者の割合 (%)	39%	31%

[未受験者:AT1=5名、AT2=4名]

上記は 2014 年度の結果で、不合格の学生を対象に、PAL プログラムを実施した。

結果及び考察

AT1、および AT2 に不合格の学生は、週 1 回 80 分 3~4 回の勉強会を受講した後、再試験に臨んだ。再試でも合格点に達しなかった学生には、さらに勉強会を行い、再々試験を実施した。結果は以下の通りである。

	AT1		AT2	
	再試	再々試	再試	再々試
	Oct	Dec	Oct	Dec
合格	27	4	16	10
不合格	4	0	8	3

[未受験者：AT1 Oct=2,Dec=1 AT2 Oct=3, Dec=0]

※学籍異動があったため学生総数に増減あり

1 年生は、答案返却時に解説を行い、課題を提出させ、全員条件付きで合格という最終結果となった。2 年生は 3 名、再々試も不合格者があったが、追って課題を提出させて、AT2 に関しては修了とした。

2015 年度からは、特に 1 年生に関して、正課の授業との連携を図り、本課題を学科生の英語基礎学力育成の柱へと発展させる計画である。